

ホリ牧場を基盤とした『稼ぐBCP』モデルの構築と地域経済の強靱化

指導教員 金沢大学 教授 松島大輔

参加学生 大学院 宮島理沙子
4年 橋本美幸 工藤朱希
3年 大空秀汰 梶田恵子 斎藤煌生 半田優悟 村田篤則
 脇田由里秋

ホリ牧場

～地域連携とBCP課題の分析～



ホリ牧場：石川県最大級のメガファーム

内灘町に位置する酪農拠点。
能登半島地震では長時間の断水により、搾乳や牛の飲水確保が困難に

△BCPの課題

- ・長期断水を想定した恒常的な代替水源が確立されていない
- 「その場の対応」は可能でも、長期的・安定的な事業継続は難しい
- ・断水時における水利用の優先順位がBCPとして整理されていない
- 緊急時、水をどの工程に使用するか決めておらず、判断が属人的になりやすい
- ・牧場の立地および排水能力に起因する慢性的な浸水リスクを抱えている
- 浸水が繰り返し発生する可能性があり、事業継続を脅かす要因となっている



ナカムラ消防化学：消防技術による支援

消防車メーカーとしての高度な水制御技術と機動力を保有。災害時の牧場における「水」の確保において、極めて重要な技術的役割を果たす。

🔗連携による解決策

- ・洪水・浸水時の排水・水移送に活用可能
- ・送水は上に100m・横に1kmまで対応可能で、牧場と消防署をつなぐことができる
- ・可搬性により車載・現場配置が容易
- ポンプは車に積めるため、狭い場所や住宅街の通路も事前にルート計画すれば迅速に展開可能。即応性・現場対応力が強化される。



細坪信二先生による講演

稼ぐBCPの公演を実施
今後の活動指針の策定などの参考にした。

講演内容

- ・復旧にこだわらない災害対策→完全に回復を目指すのではなく、小規模事業からの回復
- ・同分野・他分野問わず協力を求め、早期の事業回復
- ・企業や団体などほかの事例を含めた説明

今後の方針

- ・ホリ牧場や他企業でのBCP推進支援
- ・BCPコンサルを軸とした、BCP支援事業の構想

1. 活動の要約

稼ぐBCPの実現、事業化を行うための調査の実施

主に以下の3点を行った

- ・ホリ牧場との定期的な面談
- ・協力企業との面談（ナカムラ消防化学）
- ・専門家の講演実施（細坪信二先生）

以上のような活動を通じて、稼ぐBCPの可能性を検証し、それに沿った今後の方針を策定した。

2. 活動の目的

最終的な目標である、「稼ぐBCPを実際の企業で実現すること」「稼ぐBCPを軸とした事業を行うこと」を実現するために、ホリ牧場との面談、専門家との相談を通じて、それぞれの実現可能性の調査を目的として活動を行った。

3. 活動の内容

活動は主に以下の3点を行った。

- ・ホリ牧場との定期的な面談
- ・協力企業との面談（ナカムラ消防化学）
- ・専門家の講演実施（細坪信二先生）

① ホリ牧場との面談

ホリ牧場との面談では、牧場の防災体制、能登震災を踏まえた問題点などの洗い出し、それに対する問題点の改善方法について話し合った。この話し合いで、洪水・浸水などの水問題の解決に取り組むことに決定し、活動指針を決定した。

② 協力企業との面談（ナカムラ消防化学）

上述した、ホリ牧場との面談で、水問題(浸水、洪水)の解決に取り組むことで決定した。そこで、本活動の担当教授である松島先生と相談した結果、ナカムラ消防化学という消防器具(消防車など)メーカーが開発している「syscue」を活用することを提案していただいた。そこで、助言を踏まえて、ナカムラ消防化学との連絡をとり、興味を示していただくことができた。その後、ホリ牧場と同社の面談を実現させ、導入に向けた話し合いを進めている。

③ 専門家の講演実施（細坪信二先生）

BCP やレジリエンス経営の提唱者である細坪先生を金沢大学にお招きし、講演とこれからの活動の指針について相談した。完全復旧にこだわらない姿勢や小規模からの事業再開など、従来のBCPと異なる部分が大きく、とても新鮮な内容だった。この講演で、稼ぐBCPの方針を相談できたことで、活動の方向性がより明確となり、今後の活動のヒントになった。

4. 活動の成果

活動の成果としては下記の2点である。

① ホリ牧場の洪水支援

ホリ牧場が能登震災で悩まされた、浸水や台風などによる洪水を対策するために、ナカムラ消防化学社と協力し、ポンプ導入の指針を策定することができた。

② 今後の活動方針の決定

今回の調査によって、稼ぐBCPの方向性の設定することができ、今後の活動計画の設定することができた。次年度の、ホリ牧場でのBCP実現、事業化のためのビジネスモデル設定などに役立てていきたいと考えている。

5. 今後の活動計画

今後の活動方針については以下の3つを予定している

① ホリ牧場の支援継続

本活動で取り組んだ、ホリ牧場での水問題支援はまだ途中であるため、これを継続し改善までサポートする予定である。また、今回大きく取り組むことができなかった、稼ぐBCP(他地域との協力や事業の多角化)をより実践したい。

② 他企業でのBCP実現

ホリ牧場以外でもBCPの検証を行い、再現可能性の検証を行いたい。可能であれば、ホリ牧場とパートナーシップを結び、相互に助け合える関係を構築したいと考えている。

③ ビジネスモデルの策定・事業化

稼ぐBCPを軸としたビジネスモデルの提案及び事業化を達成したい。事業の概要としては、BCPコンサルを軸として、BCP製品(ナカムラ消防化学社のポンプなど)の販売仲介・リース、広域パートナーシップの構築、経営の多角化などに取り組むたい。これを通じて、迅速な復興支援、事業の早期復旧支援などに取り組むたいと考えている。

6. 活動に対する地域からの評価

改めて災害に対して考える機会を提供できた。能登地震が起こった直後とはいえ、今回協力企業であるホリ牧場の内灘町近辺には森本・富樫断層帯が存在し、さらなる地震の脅威が控えている。こういった未来の課題に対して、改めて課題改善の方向性を示すことができた。